



B・リベット

「自由意志」は「無意識的な脳活動の後から生じる」との実験結果を発表し、従来の決定論や自由意志論の解釈に波紋を投げかけた神経生理学者B・リベット。その主張の背後には、ユダヤ教徒としての信念があり、さらにはキリスト教との比較で、キリスト教の倫理体系を疑問視する意図もあった。近年、「脳科学と宗教」をテーマに研究する宗教哲学者、星川啓慈氏に論じてもらった。

肉などに伝達され、④腕が動き、⑤PCが開く。

しかし、事実はそうではなく、①と②が反対だとするとどうだろう。すなわち、①の「意識が生じる」という意志が生じるとすれば、ここ数十年の神経生理学やそれをとりまく諸学問では、この問題が大きな議論を呼び起こし、「自由意志」の存在／非存在をめぐって活発な議論が展開されている。

◆◆◆ 神経生理学者ベンジヤミン・リベット(1916-2007)は、手を曲げるなどの随意運動における「自由意志」は、脳内に「準備電位」と呼ばれるものが蓄積されてから約550ミリ秒後で発現する、という一連の実験結果を発表した。この「自由意志は無意識的な脳活動の後から生じる」という衝撃的な実験結果は、多くの分野の研究者の耳目を集め、従来の決定論や自由意志論の解釈に大きな波紋を投げかけた。自然主義的傾向が強い研究者たちは、これを「自由意志の否定」と結びつけている。

◆◆◆ リベットは、「自由意志は無意識的な脳活動の後から生じる」という衝撃的な実験結果は、多くの分野の研究者の耳目を集め、従来の決定論や自由意志論の解釈に大きな波紋を投げかけた。自然主義的傾向が強い研究者たちは、これを「自由意志の否定」と結びつけている。

◆◆◆ リベットは、「自由意志は無意識的な脳活動の後から生じる」という衝撃的な実験結果は、多くの分野の研究者の耳目を集め、従来の決定論や自由意志論の解釈に大きな波紋を投げかけた。自然主義的傾向が強い研究者たちは、これを「自由意志の否定」と結びつけている。

◆◆◆ リベットは、「自由意志は無意識的な脳活動の後から生じる」という衝撃的な実験結果は、多くの分野の研究者の耳目を集め、従来の決定論や自由意志論の解釈に大きな波紋を投げかけた。自然主義的傾向が強い研究者たちは、これを「自由意志の否定」と結びつけている。

◆◆◆ リベットは、「自由意志は無意識的な脳活動の後から生じる」という衝撃的な実験結果は、多くの分野の研究者の耳目を集め、従来の決定論や自由意志論の解釈に大きな波紋を投げかけた。自然主義的傾向が強い研究者たちは、これを「自由意志の否定」と結びつけている。

◆◆◆ リベットは、「自由意志は無意識的な脳活動の後から生じる」という衝撃的な実験結果は、多くの分野の研究者の耳目を集め、従来の決定論や自由意志論の解釈に大きな波紋を投げかけた。自然主義的傾向が強い研究者たちは、これを「自由意志の否定」と結びつけている。

その一方で、キリスト教のマタイ福音書の「人にしてもらいたくないこと」(7:12)という一節を引用しつつ、これは「積極的な活動家志によるものだ、というのである。つまり、「自由意志を中止しよう」という意志と「自由意志とは「異質」なものである。当然、多くの研究者には評判が悪いし、私も彼のこの態度には納得がいかない。不自然である。世界的な神経生理学者として、「自由意志」に先行する、何らかの脳活動を追究する姿勢くらいは見せて欲しいものだ。

神経生理学者 B・リベットが切り込んだ原罪 ユダヤ教徒としての信念貫く

星川 啓慈 (大正大学教授)

◆◆◆ リベットはユダヤ教とキリスト教との比較をしているのだが、軍配は明らかにユダヤ教に上がる。彼に従えば、キリスト教の倫理は脳内で無意識に起動する願望・衝動・意図に起因し、ユダヤ教の倫理は行為を中断することによって自由意志に関する。マタイ福音書には、次の有名な一節がある。「みだらな思いで他人の妻(女)を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯した

◆◆◆ リベットはユダヤ教とキリスト教との比較をしているのだが、軍配は明らかにユダヤ教に上がる。彼に従えば、キリスト教の倫理は脳内で無意識に起動する願望・衝動・意図に起因し、ユダヤ教の倫理は行為を中断することによって自由意志に関する。マタイ福音書には、次の有名な一節がある。「みだらな思いで他人の妻(女)を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯した

◆◆◆ リベットはユダヤ教とキリスト教との比較をしているのだが、軍配は明らかにユダヤ教に上がる。彼に従えば、キリスト教の倫理は脳内で無意識に起動する願望・衝動・意図に起因し、ユダヤ教の倫理は行為を中断することによって自由意志に関する。マタイ福音書には、次の有名な一節がある。「みだらな思いで他人の妻(女)を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯した